

序 文

2020 年より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が流行して、医療現場における感染対策の重要性が再認識された。

すべての患者が感染症に罹患しているかどうかを診療前に把握することは現実的に困難であり、すべての患者が感染症に罹患している可能性があるものとして対応する必要がある。とくに適切な手指衛生の実施とマスクやアイガードなどの个人防护具の着用を行う標準予防策は、非常に重要な感染対策であり、COVID-19 流行後は全国の医療現場で遵守されるようになった。

本邦の透析施設では、「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン」¹⁾に基づく感染対策が行われており、COVID-19 流行前より透析室の医療従事者には以下が推奨されている。

- ・透析室ではサージカルマスクを着用し、穿刺や止血などの手技や処置の前には、未使用のディスポーザブル手袋を着用する。
- ・手技の前後では、石けんと流水による手洗いまたは速乾性手指消毒薬による手指衛生を行う。
- ・透析の開始や終了、創部の処置などを行う場合は、ディスポーザブルの非透水性ガウンまたはプラスチックエプロン、サージカルマスク、ゴーグルあるいはフェイスシールドを着用する。

この推奨を遵守している施設では、流行後に新たな感染対策の追加は少なかったと考えられる。

しかし、全国調査の結果では、COVID-19 流行前のマスクの着用は 87.0 %、エプロンまたはガウンの使用状況は 58.0 %、フェイスシールドまたはゴーグルの使用状況は 51.7 %であり²⁾、多くの施設でガイドラインの推奨を遵守していなかった状況が確認された。

新興感染症のパンデミックに対して、ワクチンによる予防や抗ウイルス薬による治療は非常に重要であるが、この開発には長い時間を要することから、いつからどのくらい供給できるかなど、不確定要素が非常に多い。実際に、COVID-19 に対するワクチンの接種開始は、高齢者や透析患者などが 2021 年 4 月であり、内服による抗ウイルス薬の使用開始は、2021 年 12 月であった。今後も、新興感染症のパンデミックが起こる可能性はあり、ガイドラインで推奨される基本的な感染対策の継続は非常に重要である。

一方、COVID-19 の流行により、臨床からの感染症のエビデンスが多く報告

され、感染対策による予防やワクチン接種による重症化予防効果が確認された。
本企画では、手指衛生、血液透析の手順、環境消毒、各感染症への対応や治療、ワクチンについて、各分野のエキスパートの先生方から解説いただくこととした。

この企画は秋葉隆先生が発案されましたが、2022年にご逝去されたため、秋葉隆先生の弟子である私が担当させていただくこととなりました。

長年にわたり腎・透析領域の感染症対策にご尽力した秋葉先生のお仕事は、とこしえに学会の指針としてわれわれの中に残ることでしょう。

わが師である秋葉隆先生の仕事を引き継ぎ、この特集を企画させていただいたことに感謝します。

文献・参考 URL (2023 年 5 月現在)

- 1) 日本透析医会：透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン (5 訂版).
http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/07_manual/doc/20200430_infection%20control_guideline.pdf
- 2) Sugawara Y, Iwagami M, Kikuchi K, et al. Infection prevention measures for patients undergoing hemodialysis during the COVID-19 pandemic in Japan : a nationwide questionnaire survey. Ren Replace Ther 2021 ; 7 : 27

2023 年 5 月

下落合クリニック
菊地 勘